

AI配車システムの導入による利便性向上と結節点・目的地施設と連携した 奈義町まるっと共創事業

奈義町地域共創プラットフォーム

事業の基礎情報

実施主体	奈義町
事業実施地域	奈義町
共創の類型	官民共創 ・ 交通事業者間共創 ・ 他分野共創
他分野共創の類型	観光・まちづくり ・ 医療・介護・福祉
共創パートナー	(一社) ビジット奈義、(一社) なぎポスト、(一社) 奈義しごとえん、奈義町社会福祉協議会、中鉄北部バス株式会社
運行形態	①AIデマンド乗合タクシー ②自家用有償旅客運送
運行主体	奈義町

現状・課題

(地域交通の現状・課題に関する分析)

奈義町内全域で運行する予約型乗合交通は、定時巡回運行をしてきた福祉バスから区域運行に転換したことや、エネルギー・物価高騰対策として料金割引を行ったことなどにより、利用者数は徐々に増加している。しかしながら、全町民ベースでその利用者は1割程度とまだまだ少ない。この一番の要因は、高齢者の多くが今もなお免許返納せず高齢者ドライバーとなっている状況にある（町内の70～74歳の免許保有率は91%）。高齢者の中には、無理な運転を継続している人も多くと危惧しており、また現在の予約型乗合交通利用者の75%が医療機関・公共施設などの最低限の移動に集中していることから、潜在的な利用者ニーズを汲み上げると、買い物や趣味・娯楽・健康づくりなど「楽しみ」や「余暇」の移動ニーズは高いと考えている。併せて、乗合い交通の維持に行政負担が年々増加する中で、限られた輸送資源を活用しながら利便性の向上と効率的な運行の両立により、持続可能な運行の実現が必要である。本事業では、様々な異業種の共創パートナーは連携し、持続可能で利用者に魅力ある運行の実現を図るため、AI配車システムの導入や定額制の導入など現行の予約型乗合交通の仕組みを新たな視点で改良改善するとともに、目的地となる施設や交通結節点の関係者等と連携し、拠点機能の強化や地域住民のほか帰省客・観光客などの来訪者も含めた利用者の開拓を図ることを目的とする。

地域公共交通計画への位置づけ
(位置づけ予定を含む)

有

運輸局・運輸支局への事前相談

中国運輸局岡山運輸支局

令和5年度共創モデル実証プロジェクトの補助有無

無

AI配車システムの導入による利便性向上と結節点・目的地施設と連携した 奈義町まるっと共創事業

応募様式A

奈義町地域共創プラットフォーム

事業実施手順・スケジュール

項目	担当	9月	10月	11月	12月	1月	2月
1. 見直し計画の策定							
見直し計画の策定・申請準備	奈義町、ビジット奈義	←→					
関係者と連携したサービス構築	奈義町、なぎポスト、奈義しごとえん、中鉄北部バス	←→					
2. 実証実験準備							
配車システム環境の構築・導入準備	奈義町、ビジット奈義	←→					
3. 住民周知・利用促進							
住民説明会の開催	奈義町		←→				
住民向け・観光客向け広報 (チラシ作成、Web活用等)	奈義町、ビジット奈義、社会福祉協議会、中鉄北部バス		←→				
乗り方教室の開催等	奈義町、ビジット奈義、奈義しごとえん			←→			
4. 実証実験	奈義町、ビジット奈義				←→		
5. 実証実験の評価検証	奈義町					←→	
6. とりまとめ・報告書作成	奈義町						←→

AI配車システムの導入による利便性向上と結節点・目的地施設と連携した 奈義町まるっと共創事業

奈義町地域共創プラットフォーム

取組の詳細

(地域交通にもたらされると想定される効果)

- ✓ 定額制の仕組みや利用者向けのサービス導入などの利便性向上により、予約型乗合交通の利用者数が現行の年間8,176人、1日あたり平均27.9人(R5年度)から、年間約10,000人、1日あたり約34人以上に増加する。
- ✓ 配車システムの導入により、乗降データなどの情報が蓄積され、事業検証に関わる環境が整備される。

(地域全体に及ぶと想定される効果)

- ✓ ナギフトカード会や目的地となる商業、観光施設、社会福祉協議会と連携した利用促進の取組、また定額制の仕組みの導入により、①高齢者の外出回数の増加と介護予防費・医療費の削減、②商業施設の収入増と活性化、③観光客の利便性向上と口コミによる利用者増、が期待できる。

※特に以下の効果が想定される場合は、その項目に○をつけ(複数選択可)、当該内容について上記に具体的に記載してください。

<input type="radio"/>	新たな移動手段の創出や各種送迎への地域住民の混乗などによる、地域住民の利便性向上	貨客混載や各種送迎の公共交通への集約など、交通事業者や地域の関係者の生産性向上
<input type="radio"/>	乗降データを取得する等、データを活用して、事業検証ができる環境整備	通院者や商業施設の利用者に関する情報など、他分野の移動需要に関するデータの利活用

(補助事業実施後の予定)

- ✓ 今年度に定額制の仕組みや配車システムの導入などについて関係者との調整したうえで実証実験を実施する。
- ✓ 実証実験の結果を踏まえて適宜見直しを行ったうえで、R7年度より本格運行へ移行する予定であるが、本格運行への移行にあたっては地域公共交通確保維持改善事業費補助金(フィーダー補助)を活用して運行することも検討する。

資金面	本事業の実施においては共創モデル実証運行事業の資金を充てる予定である。不測の資金需要が発生した場合は事業内容に優先順位をつけながら必要な項目に充てる予定である。 補助事業実施期間後は地域公共交通確保維持改善事業費補助金(フィーダー補助)を受けて運行することを検討する。
人材面(運転手の確保)	交通事業者の運転手確保に対して、奈義町を含む津山圏域定住自立圏の「津山圏域公共交通連絡協議会」の取組として、2種免許取得に関する補助事業を行っており、今後もこれを継続する予定である。また、町内にある陸上自衛隊日本原駐屯地援護課と連携し、2種免許取得者の再就職のあっせんを受けており、こちらも継続する予定である。